

実施日：7月13日（3校時）	
領 域：特別活動	
取組名：どうしよう（資料「ねえ聞いて」兵庫県立教育研修所いじめ未然防止プログラム）	
対 象：3年生	実施場所：3年生教室
<p>ア ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 困ったときには自発的に援助を求めることや困っている人の存在に気付き、援助することの大切さを知る。 ・ 差別に気付いたり、差別を解消したりしようとして行動するスキルを身に付ける。 	
<p>イ 指導内容（指導略案）や取組の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 最近あった困ったことを想起する。 2 「困ったカード」を見て、困っている人を見つけ、その人はどうすれば良いかを考える。 3 「困ったカード」の中の困った人は、友だちにどんな言葉で助けを求めれば良いかを考える。 4 助けを求められた人はどうすればよいかを考える。 5 困ったときには助けてくれる人が周りにたくさんいることを知る。 	
ウ 連携先：家庭	
<p>エ 連携に向けての取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学級通信を通してこの取組を保護者と共有し、学校で困っていることがあれば、友だちや先生に相談するように保護者へ呼びかける。 	
<p>オ 組織的な取組とその点検・評価を行う上での工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活指導委員会が毎月とっている児童アンケートの結果などから児童の実態を把握する。 ・ アンケートをとった後は、担任が個別に面談をする。特に「学校が楽しくない」と答えたり、自由記述欄に気がかりな事項を記述したりしている児童については、時間を取って丁寧に面談を行うことで、本人の気持ちや考えを知る手立てとなっている。その上でどうすれば良いかを児童と共に考え、解決に向けて行動することができている。 	
<p>カ 評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 班での話合いの様子 ・ ワークシート 	
<p>キ 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いじめられていたら助けてあげようと思った。」「いやなことをされても助けてくれる先生や友だちがいると分かった。」など主題に迫るふり返りを書くことができていた。 	
<p>ク 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から助けを求めることが難しい児童には、引き続き支援を続ける必要がある。 ・ 児童にこの学習を通して、今後の生活の中で実践力が育っているのかを検証する。 	